

伊平屋・伊是名架橋建設の可能性について ／ 野甫英芳

■議長（金城信光） ◎日程第14 一般質問。一般質問は通告順に行います。第1通告者、7番 野甫英芳議員の発言を許します。野甫英芳議員。

■7番 野甫英芳議員 7番 野甫英芳、一般質問させていただきます。まず第一に、伊平屋・伊是名架橋建設の可能性についてお伺いをいたします。先日、琉球新報で伊平屋・伊是名架橋建設について、沖縄県議会で沖縄県の土木建築部長前川智宏部長から、「架橋建設で、水深の深い場所があつて事業費が高額になるため費用便益が低いので、事業化の可能性は厳しい。」という答弁がありまして、「伊平屋・伊是名両村においても説明会を開いて説明をして、一定の理解をしてもらっている。」という答弁を沖縄県議会でやってるんですよ。伊平屋・伊是名架橋が架橋建設しようということになって、2015年から始まっているわけですね。今年で10年になるんですが、橋を架けるのが難しいと言われている状況になりまして、それについて伊平屋・伊是名両村は今後どのようにしていくのか、それをお伺いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

■議長（金城信光） 答弁、建設課長。

■名嘉彰建設課長 野甫議員のご質問にお答えいたします。野甫議員がおっしゃっていることは、県議会の2月定例会の代表質問の答弁だと思いますけれども、この中で、平成27年度から検討に着手し、令和5年度まで現地調査を終え、令和6年度、調査検討結果の取りまとめを行い、その結果、水深が深い区間が長いこと、基礎支持層が深いことなどに伴い事業費が高額となることから、費用便益費が低く、事業化の可能性は厳しいだろうという話だと思います。これを県の道路街路課からも同じことをご説明いただいております。しかしながら、今後両村の対応につきましては、厳しいという現実はありつつも、要請は続けていく予定となっております。以上です。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 それでは村長にお伺いしますけれども、建設は厳しいと言われる中で、要請活動をやっていくという無駄な予算を使ってやっていくということに実際意義があるのかどうか、村長はどうお考えですかね。

■議長（金城信光） 名嘉律夫村長。

■名嘉律夫村長 野甫議員の質問にお答えします。建設課長から答弁があったとおりだと思います。いずれにしても今、調査報告が出ている中で、今後要請をしていく必要があるのかという質問に対しては、架橋の話は伊是名村から出ていることなんですね。今般の日本のいろいろな状況を鑑みてみると、これだけの災害が起こっている、東北の東日本震災についても、もう30年近くなんすけれども、それもまだ復興が終わらない。それに熊本の地震、それと去年起きた能登半島大地震ですね、そう言う復興を今後どうしようかと国が非常に悩んでいるところで、「この架橋が本当に必要であるか」ということについてなんですけれども、人口減少とともに・・・、費用便益が非常に、1.0にも満たないんですね。まあゼロに近い費用対効果なんですけれども、果たしてそういう中で、今後両村が要請していく中で、こんな状況も踏まえて要請していかないと、ただ橋を架けるだけの要請では、国は多分予算をつけないだろうと考えています。

いずれにしても伊平屋村から伊是名村に、県から非常に難しいと、「予算が高額な点などを考えて、この架橋の整備は非常に難しいだろう」という結論が出ている中で、どうやって要請していくかというのは、両村で再度議論を重ねてやっていくことが妥当だろうと思います。

前にも話してたんですけど、伊良部架橋とか宮古には三つの橋があるんですけども、橋を架けて良くなったかというと、良くなつてないんですね。ほとんどが過疎に向かっているということで、両村が橋を架けて本当に良くなるかということは、非常に今の現実から見ると厳しいのではないかというふうに結論づけるところなんですけども。

いずれにしても伊是名村と今後いろいろ話しながら、どういうかたちで要請していくかというものが一つの課題となるんですけど、いずれにしても我々が生きているうちは、この橋が架かるることはまずないと思います。

ということで、私が一番気にしているのは、明石海峡大橋というのは、当時の神戸市長が提案したんですね。そしたら議会から「市長は白昼夢でも見ているんじゃないかな」というふうにいろいろと揶揄されたんですけども、70年後にこの橋はできたんですね。しかしながら、我々の伊平屋・伊是名架橋とは全然違う。「このわずか2500人も満たない島で、本当に橋を架けられるか」というのは非常に難しいと思うんですけどもね。余談だったんですけども、いずれにしても今後どういうふうにしてこの架橋の実現に向けて要請していくかというのは、お互いがテーブルについて、再度お話しする必要があるかと思います。以上です。

■議長（金城信光）　野甫議員。

■7番　野甫英芳議員　村長の今の答弁ですが、我々が生きている間は難しいということですけど、そうすると40年間は難しいということですけど、40年間でこの橋を架けるっていう現実的なことが起こるのかどうかって。

ここに沖縄県からの検討結果について、伊平屋・伊是名架橋に係る事業経費というのが概算で出てますけど、700億円は予算化しないとダメだということで発表されてるんですね。村長が、今年の、また来月の4月にも北部広域連合の道路網整備の時に伊平屋・伊是名架橋の推進も併せてということで参加することになってるんですが、もう現実的な話「これから橋を架けるということで、ずっと国・県に対して要望をしていくのかどうか」というところがよくわからないんですよね。例えば30年間要望しても30年間成り立たないことに対して、予算を使ってやり続ける。現在の村長も伊是名の村長も、もう30年後はいませんので、住民の意識も全部変わってると思うんですけどね、そのへんも合わせて、もう早めに、架けないんだったら架けないと結論を出したほうがいいと思うんですけど、どうですか、村

長。このへん、伊是名の村長と話して決められたらどうかと思うんですけど、どうですかね。

■議長（金城信光）　名嘉律夫村長。

■名嘉律夫村長　野甫議員の質問にお答えします。まさにそのとおりで、今後どういうかたちで要請していくかというのは大きな課題となりますけど、伊是名村がどれだけ熱を持ってやるかなんですけども、伊平屋村としては、今皆さんにお配りしたパンフレットの中にもあるとおり、非常に厳しい。支持盤が 90 メートルもあるんですね。そうすると、今日日本の技術でやった実績としては最高 80 メートルです。辺野古で杭を打ってるんですけど、これ 90 メートルです。同じことを果たしてできるかどうかって非常に大きな課題だと思っています。
そういうこともお互いの中で話しながら、これは非常に厳しいだろうということで、やっぱり早く結論づけるほうがいいのかなと思いますけれども、いずれにしてもこの事業では、最新の技術を持ってこないと非常に厳しいと思います。池田副知事は 1,000 億ぐらいはかかるだろうということを言っていました。県としては非常に厳しいだろうということを言っていますので。伊是名の協議会と、これからどう向き合って要請活動を続けるのか、どこかでもうやめるのかも含めて話していきたいと思います。以上です。

■議長（金城信光）　野甫議員。

■7番　野甫英芳議員　伊是名の議員の中にも、「いつまでこういう無駄なことをするんだ。」という皆さんもいらっしゃるわけですよ。そういう事情もありますので、是非ご検討されて、できましたら今年中にやるのかやらないのか解決してほしいと思うんです。やるんでもしたら何のためにやるのかとかですね、今のところ、ただ橋を架けるっていうだけで、何のためにやりたいのかっていうことが上がってきませんので、今年やるということを決定したら、じゃあ一体何のためにやるのか、どういう利用価値があるのかということを具体的に

上げてやってほしい思いますので、よろしくお願ひします。以上で、架橋についての質問は
終わります。